

電子実験ノートの導入と R&Dデータ共有・利活用ノウハウ

◆日時：2025年06月06日（金）10:30～16:30

◆会場：【WEB限定セミナー】※在宅、会社いながらセミナーを受けられます

◆聴講料：1名につき55,000円（税込、資料付）

※会員登録（無料）をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申し込みされた場合、1名につき49,500円（税込）

・2名同時でお申し込みされた場合、2人目は無料（2名で55,000円（税込））

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

●講師：(株)キャトルアイ・サイエンス 代表取締役 上島 豊 氏

IoTやAIの普及により、製造工程以降のデータ利活用は急激に進展しています。一方、公的研究機関であれ、民間企業であれ、R&D部門におけるデータの取り扱いには属人的なままであり、研究の信頼性が阻害されたり、効果的なデータの利活用がほとんど進んでいないのが実態です。本講演では、まず、R&D部門のデータ共有、利活用の実情をお話しさせていただき、データ共有、利活用が進まない状況がなぜ発生してしまうのか？そのような状況にはどのような問題がはらんでいるのか？等を説明させていただきます。次に、データ共有、利活用状況を改善するために必要な方策に関して、電子実験ノートを導入する際に必要な要件及び、各個人に必要な意識改革や会社としての体制づくり等を説明させていただきます。最後に、電子実験ノートを導入、運用に陥りがちな落とし穴とそれらの回避方法に関して解説させていただきます。

1. はじめに

講演者のR&D実績とデータ共有の取り組みについて

2. R&D部門のデータ共有の実情

2.1 R&D部門のデータ共有状況

2.2 属人的データ共有状況が引き起こす問題

2.3 属人的データ共有状況が生み出される原因

3. データ共有状況を改善するために必要な方策

3.1 属人的データ共有状況を脱するために必要な方策

3.2 データ共有基盤としての電子実験ノートのメリット、デメリット及び選択基準

3.3 データ探査、分析を意識したデータ蓄積方法

3.4 データ分析は、どのようにして行うのか？

3.5 データ共有、利活用状況を改善するために必要なプロジェクトチームの作り方

3.6 プロジェクトメンバーに求められる資質

4. 電子実験ノートを導入、運用する場合の注意点

4.1 電子実験ノート導入による改善例

4.2 電子実験ノート導入時に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策

4.3 電子実験ノート運用後に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策

5. まとめ

『電子実験ノート【WEBセミナー】』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録（無料） ※案内方法を選択してください。複数選択可。

 Eメール 郵送

● Webセミナーの受講申込みについて ●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして、別途視聴用のURLをメールにお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>